



今後の学習指針と流れ

いよいよセンターまで100日を切りました。現役生は最後の最後まで伸びますから、学年で丸となって、入試を迎えていきましょう。今後の学習の流れを以下に示します。しっかりと理解して、弱気にならず、励ましあいながらすすみましょう。

10月～11月の学習の指針

全科目、全分野に渡りながら、第一志望や限りなく第一志望に近い大学の過去問題の傾向を確認しながら、基礎、基本の確認と限られた時間で解ききることも含めた、大学の入試問題対策を平行して行います。注意点としては、基礎や基本をしっかりと確認しながら、その一方で「基礎だけ」にしない、過去問題対策が不足しないように、バランスよく行うことが大切です。あるいは、センター試験対策ばかりをしてしまったり、記号に○をつけるだけの学習になると、あとあとに響きます。ラストスパート前の一番苦しいところかもしれませんが、基礎と応用をバランスよくやっていく他はありません。

なお、この時期、特に文系は、受験大学のパターンをあまり考えず、滑り止めに近い大学については、様々な大学の問題に当たった方がよいと思います。現時点で、受験パターンを考えない方がよい理由としては、

- ① 現段階では夏休み直後の模試の結果しかなく、したがって準備が遅れた生徒の実力を把握することが難しいこと。
- ② 現段階では、入試情報が出そろわず、狙い目の日程や狙い目の大学を組み込むことができないこと。
- ③ したがって、理想的な日程を組むと皆と同じ受験パターンになり、結果、激戦の入試に突入してしまうこと。
- ④ 滑り止めや確実にとりたい大学については、むしろ問題の相性が合う大学を探す必要があり、したがって、問題をやる→大学を決める、の順番の方がのぞましいこと。

が挙げられます。受験校選定については、12月以降となりますので、そこで詳しいことを参照してください。

AO公募などの受験者

準備をすることは大切ですが、必ず一般入試の準備をしてください。極端な言い方をすれば、宝くじだと思ってください。決して合格しやすいわけでも、不合格なら一般もだめなわけでもありません。公募の不合格者から、一般の合格者が出るのですから、一番難しい入試なのです。変な期待をして、一般入試の準備をおろそかにしては目もあてられません。一般入試の科目に小論文や面接という科目が加わったと考え、3科目が5科目になったという配分で、一般入試の勉強を継続することが重要で、決して準備にのめりこむことのないようにしましょう。

10月23日、30日 全員受験 河合マーク、記述模試

11月上旬、各種大学別模試など

判定は未来の予測ではありません

模試の判定を「3年の〇月でこの偏差値の人は〇%受かる」＝「今後の伸び率」と考えている人がいますが、これは違います。模試の判定は予測でさえないので。

模試の判定は、模試ごとに判定に使う偏差が変わる訳ではありませんから、最終的に偏差値〇の人が50%受かるラインをCとしたに過ぎません。したがって、偏差値55がCラインであれば、浪人生であろうが、現役生であろうが、全てCなのです。

つまり、模試の判定は、「今、模試受験があったら、〇%受かる」ということに過ぎないので。たとえば、Eが20%以下ラインだとして、同じ入試が「今」あったとしたら、この中に奇跡的に(?)Cをとる人が出ますし、Aの中でもDに落ちる人が少数ながら出ますから、その確率を表示したものなのです。

模試は未来予測ではありません。現役生はまだまだ伸びます。経験上、DやEの上の方であれば、かなりの確率で合格に届きます。信じてがんばりましょう。

1 1月初旬 芝浦推薦最終志望調査

この段階で芝浦の1次推薦の出願が始まります。統一試験を受験していれば、出願できますが、説明会、保護者会に参加していない場合、同様の説明を学校で受けていただきます。

1 1月下旬～1 2月上旬 秋の模試の結果返却

この時期に、秋に受けた模試の結果が返却されます。勘違いをしてはいけないのは、これは12月現在の実力でなく、一ヶ月から一ヶ月半前の、自分の実力であるということです。勉強の成果が出るまでに時間がかかることを考えてみると、夏休みに順調にいったかどうかであり、秋冬の成果が出ているとはいえないかもしれません。とはいえ、この模試の成績を見ながら、「絶対現役」「浪人辞さず」「通学距離の妥協」などさまざまな要因を考えて受験校を決めざるを得ません。逆に言えば、ここしか、受験校、受験パターンを決める時期はない、ということです。この時には、さまざまな要素を考えた上で、弱気にならず、しかし確実な受験パターンを組む必要があります。

1 2月初旬～中旬 各予備校入試動向説明会

秋の模試の動向を受け、各予備校では今年の入試動向の報告会が行われます。そうした傾向をみなさんにフィードバックできるのも、模試の返却と同様の時期となります。ここでの報告では、人気系統や注意を要する系統、今年生じたバッティング、校舎移転や入試の変更の確認、それに伴う動向変化などです。したがって、この報告を生かすことで、特に滑り止め校を把握するのに役立ちます。特に、志望校の判定がふるわぬ生徒ほど、この報告会を生かして受験校を決める必要があります。

なお、この動向説明会は、予備校が高校教員向けに実施するものです。本校では、その報告を教員がまとめた上で、みなさんに校内で説明会を開く、あるいは個別面談でフィードバックする予定です。

1 2月初旬 芝浦推薦試験

基準を上回るようがんばってください。いくつかの基準は下回っても合格することはありますが、基準がなくなるわけではありませんので、少しでも基準に近づく点数がとれるよう努力をお願いします。

1 2月中旬から

国公立受験者は特にセンター対策に移行しましょう。

駿台のセンタープレを入試と同じ時間割で学校実施するのを皮切りに、冬休みに国語のセンター講座、冬休み明けは全科目のセンター講座、直前に学校で、入試と同じ時間割で最後のファイナルトレーニングと進めます。私大、二次対策を11月いっぱい進めたら、12月はいったんセンターに戻るイメージです。

1月 センター試験

出願では決して弱気にならないことがポイントです。入試がはじまりませんから、合格がなく、したがってどうしても「合格」がほしくなりますが、これまでの模試で私立の判定が出ている場合、漠然とした不安で、志望を下げると、結局、私立でそれ以上の大学の合格がとれ、

「国立は受けない」というつまらないことになります。毎年、受けないなら第一志望に出願しておけばよかったのに、と思う生徒がどれだけいることか。

また、後期は、同様の理由で出願しても受験しない生徒が山ほど出てきます。強気強気で出願して、最後までがんばると、一般入試や前期に比べれば、かなり高い確率で合格をとれますので、強気がキーワードです。

2月 芝浦工大2次推薦

芝浦工大2次推薦は工学部推薦定員の5%と定められていますので、工学部全体で多くて3名、たいていは2名以下です。(システム理工はありません。)しかも、人気学科については募集をしませんので、ここを期待することはやめてください。したがって、とりあえず、一般受験をしてダメなら芝浦2次、と考えるのは非常に危険です。

受験校選定の前に

現役か、浪人か？

現役で進学するか、浪人してでも第一志望を貫くのか、というのは本当に難しい決断です。しかも、これは単純な2択でなく、いくつかの選択肢に分かれると考えられると思います。

① 第一志望、もしくはある一定の大学に入学することを前提として受験をする。

→この場合、自分の志望する大学に合格をとるための、受験パターンと、浪人をした時に勇気を持つことができる受験パターンを考える。

② ある一定の大学に入学することを前提に、できるだけ確実な受験パターンを組む。

→第一志望のレベルの大学ばかりでなく、判定で可能性がある大学を厚く受験しながら、滑り止めの大学を作っていく。

③ 現役で進学することを前提に安全なパターンを組むが、不測の事態が起きた場合は、しかたがないと考えられる。

→A判定やB判定がついている大学を混ぜながら、C判定の大学を複数受けるように受験パターンを組む。A判定がついている大学に落ちたら仕方がないと思えるかどうかのポイント。C判定を厚くするタイプ。

④ 絶対に現役で進学するので、不測の事態さえも起きないように確実な入学パターンを組む。

→A判定を2つ、B判定を2つ、というように、志望よりは、判定を中心に、ピラミッド型の受験パターンを組む。

おおざっぱに分けても、以上のような4パターンとなりますが、結局は、「志望大学・ある一定のレベルの大学への熱意」と「判定」のバランスで考えざるを得ません。これがアンバランスであれば、どうしても現役か、浪人か、ということを考えざるを得ないので。

浪人の問題点は、大きく分けると3つです。ひとつは、金銭的な問題。おそらく予備校で100万円、入試自体で今年と同じ、もしくはそれ以上の金額が生じます。2つ目は、第一志望に入れるかどうか保証がないということ。浪人して第一志望に入る保証があればいいのですが、必ずしもそうでない以上、誰でも不安になります。そして、同じようなことですが、3点目として精神的な問題。現実的には起こりえないのですが、受かったところさえ落ちるかもしれないと考えたりさえするのが、浪人生の心理です。

では、現役で進学することの問題点は、何かといえば、不本意であるということです。さまざまな形の不安、不本意があると思いますが、多少の悔いは多かれ少なかれあるにせよ、入学した後に自らの大学を誇れないレベルであるとするれば、これほど不幸なことはありません。

予備校では、5月～6月の入学生が増えているそうです。これを「不本意入学」と呼んでいます。入学金、授業料を払って進学はしてみたものの、やはり合わない、納得がいかないなどの理由で、浪人を選ぶというような生徒が増えているのです。浪人よりもお金がかかってしまうというような結果になっても、それでも浪人するということですが、これはやはり、妥協が生んだ結果のように感じます。

どこに行っても同じ、というのは嘘です。進学校にいけば大学受験対応の授業がありますが、そうでない学校では授業が受験に対応しないように、大学でもそこにいる生徒の質で、カリキュラムの中身は変わりますし、対応も変わります。何より、友人に支えられながら、友人と情

報交換をしながら、さまざまな社会に出る準備をするわけで、その意味では、どういう質の友達がいるかということは重要なファクターです。常識、普通、さえも変わってしまうのですから。

そう考えてみれば、浪人のデメリットである「保証がない」ということも、成長のための糧と捉えることもできるでしょう。何も浪人を薦めているわけではありません。安易に「不安から逃げる」というだけで、不本意入学にならないようしっかりと方針を定めることが重要です。

何校受けるか？

ここまでの話でわかったかと思いますが、「現役か浪人か」のどのパターンであるかと、合格可能性がどのくらいあるか、で受験校数はかなり変わります。たとえば、早稲田大学にA判定やB判定がついているなら、このあたりを2～4受けて、MARCHレベルを2つも受ければかなり確実な受験パターンでしょう。

しかし、早稲田にE判定がついているけれど受けたいとなると話は変わります。たとえば、早稲田を政経、商、社会学、教育と受ければもう4つです。MARCHレベルもおそらくCやD、場合によってはEでしょうから、かなり数を受けたくなるはずですが、滑り止めは全く作っていませんし、妥当な学校を2～3、安全な学校を2～3と受けていけば、あっという間に10校を越えます。これにセンター利用を加えたら…。

恐ろしい数の受験校になることがわかるでしょう。

基本的には、逆三角形型が望ましいといえます。第一志望校や進学妥当校を厚くし、滑り止めに薄くするというパターンです。これを基本としますが、偏差値や判定が芳しくないのに「どうしても早稲田」となると、その上に受験校を積み上げる必要があります。逆に、「絶対に現役」となると、第一志望をあきらめるのでなければ、どうしても下に増やす必要が出ますから、上から下まで2～3校ずつとなり、受験校がかさむこととなります。

受験パターンと合格のとりやすさ

基本的に、センター利用、全学部入試、個別入試、という3つの入試パターンがあります。(全ての大学が3パターンあるわけではありません。)一概にまとめられるものではありませんが、おおよその傾向を書いておきます。

① センター利用入試

センター試験の結果を利用して、判定を行う入試。受験料も比較的安く、入試回数を減らすメリットがある。ただし、合格は比較的とりにくい。受験生が減っても、合格数を絞り、レベルを保とうとする傾向がある。今年廃止された慶応のセンター利用合格者で、実際に入学した者は0名であったとのこと。すなわち、センター利用で合格をとれる生徒であれば、一般入試で合格をとれる可能性が高い。

なお、センター試験前に出願する事前出願の大学と、センターの結果のあとに締め切りのある事後出願があるが、一般的に事前出願の方が入りやすい傾向にある。

② 全学部入試

ある大学で共通の入試を課し、ひとつの試験で複数学部の判定を行う入試。一般的に個別入試の前にあることが多い。大学によって、複数学部への出願がOKな大学と、認めていない大学にわかれる。個別入試と比べてどちらが合格をとりにやすいかは、大学によって、また、年度によって異なるので非常に難しいが、どちらかというとなら個別入試の方が入りやすい傾向にあると考えられる。

③ 個別入試

いわゆる一般入試。結局、この入試が一番入りやすいと考えられるし、ここを軸に考えるのが一番。

必ず合格校をとろう。

受験に関しては、仮に「浪人辞さず」と考えていたとしても、「〇〇大学以下は進学しない(させない)」と考えていたとしても、必ず合格校をとってください。理由は大きく分けると2つです。

① 第一志望合格のための準備を進める

受験というのはスポーツの試合や大会のようなものです。オリンピックがいくら4年に1

度だとしても、次のオリンピックはやってきますし、それに類する世界選手権や日本選手権、大学選手権などなどさまざまな同様の試合や大会を経験しながら本番に向かうわけです。しかし、大学受験は、本当の1発勝負で、類するものといえば模試程度です。これで、いきなり本番では緊張して力が発揮できなくても仕方ありません。

かつて、センター利用で第二志望の合格をとれた生徒がいました。残すところは第一志望の受験だけです。彼は、全ての受験をキャンセルし、第一志望に向かいます。結果は不合格でした。考えてみれば、センター試験を受けて以来、1ヶ月全く受験を知らず、個別入試は初めてだったわけです。彼は、因果関係はともかく「がんばったのに1校受けて終わりというのが不完全燃焼だった」という意味の話をしてくれました。

受験は、進学のためだけでなく、いかに第一志望、進学を期待している大学の受験に向かうかという視点でも考える必要があります。したがって、センター利用で合格しても、少なくとも受験校を0にするようなことは決してせず、受験を経験していくことが大事だと思います。

② 浪人したときの「目安」を作る

私自身が浪人した時の一番の問題は「不安」でした。MARCH以下は進学しない＝受けない、という図式で現役を終えるわけですが、浪人をして成績があがる実感があるにせよ、ちょうどこの秋頃から漠然とした不安に襲われます。当然と言えば当然ですが、二浪が絶対に嫌な自分は、MARCHどころか、その下から受けはじめます。それでも、本当に大丈夫か不安になるのが浪人生です。実際、センター試験では予定通りに点数がとれていたにも関わらず、絶対に大丈夫な大学(すなわちA判定の大学)に出願をしてしまいます。(その時点では、私立の合格はないわけですから、不安なのです。)結果としてみれば、私立は順調に合格をとり、国立も合格をとるのですが、A判定がついた国立の大学は、レベルを下げています(自分としては現役の時の志望校という言い訳があります)ので、国立には進学せず、私立に進学します。本来は、C判定以下でも私立以上の国立に出願すべきだったということは全てが終わって気づくことです。

このようなことが起こった理由は、簡単にいうと、現役で合格をとらなかったために漠然と起こった不安のせいだと思います。もし、とっていけば、成績があがっているから、このあたりをこのぐらい受ければ大丈夫だろう、という目算が立ったはずです。

もし、逆に受けて落ちていたとしましょう。その程度の実力で「受ければ受かったけど、受けなかった」などと思って浪人のスタートを切っていたら、危なすぎると思います。

以上のようなことから、必ず合格校を作り、合格をとっても、第一志望の合格をつかむために、きちんと受けるようにしていきましょう。

日程移動によるバッティングや校舎移転の情報

日程が移動することにより、入試日程が重なることをバッティングと呼びます。こうした日程移動も入試難易度に大きく関わります。

かつて、早稲田の法学部が現在の15日に移動した時の話です。前年度は学習院の法、上智の地球環境法だけだった15日がこの3校のバッティングになったわけです。影響を受けるのは、学習院と上智で、早稲田の法学部を受けるような上位層が、前年に比べて少なくなるわけですから、合格ラインに影響が出る、すなわち受かりやすくなることは間違いがありません。

最近、多いのは、全学部日程の新設にともない生じるバッティングです。これと同様に、特に文系では、早稲田、明治、立教あたりで日程を考えると、2日連続、3日連続を避けようとする、皆が同じように〇〇大学を受けなくなることもよくあります。偏差値によってはあえてそういう大学を受けに行くことも大事だと思います。

校舎移転により人気動くこともあります。私の感覚では、校舎移転の前年から1年目まではむしろ入りやすい傾向が続きます。たいていの場合、移転費用のために定員以上の発表をするケースが多く、受験生も滑り止め大学の情報には敏感ではなく移転そのものをそんなに知らないからです。逆に校舎が完成した2年目以降は、情報も浸透し、きれいな校舎を見て、受けたくなる一方、大学側は経営的に落ち着くので定員発表に戻ってまいりますから、激戦になるようです。

同じような情報で言うと、入学者数はとても重要で、ある学年に定員をオーバーする学年が生まれると、校舎のキャパシティなどから、絞り込んだ発表をせざるを得ないケースもあるようです。たいていの場合、こうした状況は隔年で生まれやすいので、倍率や入学数で難易度をはかる場合、最低過去2年は見ておかないと危険です。

こうした情報は、前述したように12月上旬から中旬に生徒にフィードバックします。

所在地や学部による難易度

基本的に所在地は、大きく難易度に影響します。たとえば法政大学は経営学部が通える範囲、経済学部は多摩になりますが、同様の学部名でもあきらかに多摩の方が合格をとりやすいようです。理科大であれば、野田キャンパスは全体的には不人気ですから、やや不安のある生徒は、理工学部や基礎工学部（1年次長万部）を狙うと合格がとりやすいと考えられます。

また、学部でも難易度は大きく違います。文系であれば、法学部、心理学、私立教育が別格で高く、文学部や教員養成でない教育は低めです。理系であれば、建築や医薬、化学は常に人気系統で、電気や情報が低めになっています。同じような系統でも土木（実際は都市計画ですから、むしろやりたいことが合う生徒も多いはずです）となると、その名前からか、建築より入りやすくなります。

結果、大学名にこだわるなら、明治法より早稲田教育が入りやすい、芝浦建築より、理科大土木の方が入りやすい、などのことは普通に起こりますので、しっかりと予想偏差、倍率などを確かめることが重要です。その際、前述のように、隔年現象に惑わされないよう、最低2年分は確認してください。

今後の模試予定

今後の模試予定を簡単に記します。適宜変更もありますし、追加などもありますので、参考にしてください。

10月23日 河合全統記述模試 会場実施 全員受験（経費徴収済み）

10月30日 河合マーク模試 会場実施 全員受験（経費徴収済み）

※上記、河合模試は、会場実施ですが、全員受験となります。マーク模試はICプレーヤーを使う形で実施します。

11月3日 代ゼミ全国総合模試

10月下旬～11月上旬 河合東大即応オープン 希望者 会場受験

10月下旬～11月上旬 駿台国立大各種プレ模試 希望者 校内実施

10月下旬～11月上旬 代ゼミ国立大各種プレ模試 希望者 会場実施

11月12日13日 駿台東大実戦 希望者 会場実施

11月13日 代ゼミ早大プレ 希望者 会場実施

11月17日 河合センター試験プレ 希望者 会場実施

11月23日 代ゼミ センタープレ 希望者 会場実施

11月26日27日 代ゼミ東大プレ 希望者 会場実施（校内実施検討中）

12月4日 代ゼミ全国総合模試

12月11日 代ゼミ国立記述模試 希望者 会場実施

12月15日16日 駿台センタープレ 希望者 校内実施

12月31日 代ゼミ慶大プレ 希望者 会場実施

※1月11日12日 センター試験ファイナルトレーニング 希望者校内実施

模試について

・模試を受けること自体が大事な練習です。（何も見ず、時間内で解ききる）しっかり受けましょう。

・とはいえ、たくさんの模試がありますので、自分の受験大学やレベルをもとにしっかりと作戦を立てましょう。

たとえば…

文系私大型であれば…代ゼミ早大プレ、慶大プレあたりを軸に、センター利用入試を考えているかどうかで、マーク模試をどのくらい入れるか検討する。余裕があれば、総合模試も。東大志望者であれば…駿台、河合の東大実践、東大オープンを軸に、マーク模試を入れつつ、総合模試やプレ模試を適宜入れる

国立志望者であれば…マーク模試と記述模試や総合模試を軸に考える。私大プレを入れるかは自分の実力と模試予定をにらみながら。

・模試を受けたら、①何も見ずに解き直す②参考書を見て解き直す③解説を見て解き直す、の3段階を必ず踏みましょう。これをしっかりやれば、実力は確実につくはずです。

今後の予定

10月23日 河合模試記述

10月30日 河合模試マーク

11月2日(水) 芸術鑑賞会

11月4日(金) 創立記念日(休校)

11月7日(月)～11日(金) 19日(土) 26日(土) 面談週間

※保護者面談も行いますが、この時期は受験校選定でなく、おおよそのガイドラインの確認になります。詳細な受験校選定を行いたい方は、12月以降に実施します。

11月11日(金)～17日(木) 芝浦学科説明会

12月6日(火)～9日(金) 卒業試験・芝浦推薦試験

親の心構え～「親の言葉」

子供の進路決定を前に、親としてどうふるまうべきか、というのは悩ましいところです。勉強してほしい、しかし、どうすれば子供が勉強するようになるのかというのは、誰にもわからない方法なのかもしれません。

「勉強しなさい」…「今しようと思っていたのに、そう言われるとやる気がなくなる」

「何も言わない」…「言いたいことがあるならばはっきり言ってほしい。むかつく」「ぼくのことなんかどうでもいいんでしょ。お兄ちゃんとちがって」

などなど、今やどうやってもうまく転ぶようには見えないのが、親と子供の関係です。今までもお話してきましたが、根本的には「あきらめる」ことが必要です。子供は卒業時には18歳であり、自活してくれなければ困る年齢です。放っておいても生き抜いてくれなければ困る年齢なのですから。

したがって、年の離れた弟、妹だと思ってアドバイスをし、いざとなったら助ける、という程度のスタンスが好ましいと思います。少なくとも思い通りにコントロールしようなどと思っではいけません。それができれば「あきらめ」はついているといえると考えます。

とはいえ、子供たちも、親の子離れが難しいように、親離れをしていません。面接のときには「親が…」という言葉を使って、いかにも「自分だけなら決められるけれど親が言うので無理です」という体で思考停止に陥っているケースが多いです。その方が楽だからですね。自分で責任はとらず、「親が言うので国立」「親が言うので現役」と言ってしまうと、親のせいになりますし、複雑なシミュレーションをしなくて済むからです。子供を自立、自活から遠ざけてはいけません。まして、子供が選んだ進路を親のせいにしてはたまりません。ここでは、みなさんが何気なく使っている言葉の意図しない子供への伝わり方を検証しましょう。

絶対現役！絶対〇〇大以上。そうでなければ働け！

気持としては間違っていないと思いますが、これは明らかに嘘ですね。いくら経済的に余裕がなかったとしても、高3の三月まで受験に向かい、4月から就職が決まるほど、昨今の就職状況は明るくありません。ということは、「受からなかったらフリーター」とでも言いたいのでしょうか。正しくは「受からなかったら、もうあなたにしてあげる投資は終わったので、家から出ていき自活をなささい。あとはあなたの好きなように生きなさい。」ということでしょう。しかし、こ

の言葉が本当に実践されたなら、子供はおそらく自活しながら、たとえば住み込みのバイトをしながらお金をため受験をする道を選ぶでしょう。そうすることが将来に向けた賢い選択のように見えます。ということは「浪人させない」というのは親のエゴです。腹の立つ気持はわかりますが、「うまくいかなかった以上、私の眼のとどくところで、アルバイトをして生きろ」というのはちょっと酷な気がします。むしろ、この言葉を言いたい方は「あなたの好きなように生きなさい」という結論になることを覚悟してください。

絶対国立、絶対現役、絶対〇〇大以上、絶対家から通う…

全て希望としてはよくわかりますが、本当に絶対でしょうか？これが最初の「だめなら就職」とつながっているとかなり厳しいと思います。全て達成できるにこしたことはありませんが、ものには優先順位があります。たとえば、「絶対現役、絶対国立」のご家庭の場合、実際の成績という現実を前にどう対処するのでしょうか。つまり、優先順位をしっかりと考える機会を失わせているのです。浪人してもいいのか、レベルを下げてでもいいのか、このぐらいまでなら現役でいってほしいけれど、そうでないなら浪人なのか…。考えることはたくさんあります。この場合の「絶対」は「目標」ですね。「絶対」という強い言葉を使うことは大抵の場合、受験生が自ら使うべきもので、外からかけるプレッシャーとしては不適切です。外からは「あなたは絶対というけど、いざとなったら違っても大丈夫だよ」というのが理想です。現実的なシミュレーションをするためにも優先順位を本音で話し合ひましょう。それこそ「〇〇大に行くぐらいなら浪人してもいいんじゃないか」というぐらいで。「絶対」でなく「目標」が適切な言葉です。

絶対現役！

上記のことを書いた瞬間に、すぐ浮かぶ優先順位が「絶対現役！」のような気がします。これも大きな誤りです。なぜなら、この時代、浪人したい生徒など一人もいないからです。保護者によっては子供の模試の成績もあまり見ることなく、判定だけを見て「絶対現役！」を連呼する方がいらっしゃいます。「もっとがんばれ！」というつもりなのでしょうが、であるなら素直に「もっとがんばれ！」といってください。模試の判定にはいろいろと問題があり、A判定はそう簡単にとれません。明治大学がA判定がつくなら早稲田はBかC判定がつくでしょう。つまり、50%の確率で受かるのです。現役は高3の冬から延びる生徒もいるぐらいで、現在C、D判定がついていれば十分戦えます。今後の努力なのですから。E判定でもこれから逆転できるのです。「そういうつもりで、判定をあげろというつもりで使っている」と保護者のみなさんはおっしゃるでしょう。ならば、そのまま言ってください。「絶対現役」と「判定をあげよう、もっと勉強しよう」は違う言葉です。浪人したくない今の生徒たちは、「絶対現役」と言われると志望を下げに入ります。河合塾では難関大ほどA判定がつくことはほぼありませんので、C判定を見て「じゃあ東工大に、じゃあ筑波大に、じゃあ、国立はやめる」と弱気になるのです。志望を下げるというのは、今の自分に合わせるということですから、「もっと勉強させる」つमりの言葉が逆の結果を生むのです。当たり前のことはいふ必要がない、ということですね。正しくは「第一志望に入りなさい。浪人してでもあきらめるんじゃない」というのが「もっとがんばれ」に一番近い表現です。

あなたの人生だから好きにきなさい。でもね…

前半は合っていますが、逆接の接続詞のあとに本音があるわけですから、本当は好きにしてはだめなのが、伝わってしまいます。これは順番を逆にすると効果的です。「(延々と自分の考えや価値観を語り)でもね、あなたの人生だから自分で決めなさい。」です。お母さんの場合は、そのままそこにいるとまたしゃべって、「でもね、おかあさんはね」となるので、決め台詞の後は立ち去るのがよいでしょう。

(お父さん) ちょっとここに来なさい。

お父さんは、比較的論理的で正しいことが多いです。自分が高校生の時どうだったか、という話をさておけば、生徒に比べ、論理的で正しいことが多いのです。しかし、生徒の側に立つ

てみると、正しいことはわかるけれど、正しいからこそ、それができないケースもあるのです。もちろん、生徒は冷静で、論理的で、社会状況にあったアドバイスは欲しています。だからこそ、お父さんがアドバイスする場合は、軽い場所を演出してください。さりげなく、何気なく、というのがポイントです。遊びや食事の最中は無粋ですから、帰り道とか、お父さんがテレビを見ている時とか、そんな軽いタイミングを探してください。逆に最悪は、改まった雰囲気の中にお母さんが存在することがバレる事です。お母さんがお父さんを促して、その二人を見つめているというのは最悪の雰囲気です。

まとめ

こうしてみて、共通点にお気づきになりましたでしょうか。根本的には嘘をつかず、さまざまな可能性の中で、選ぶべき結論をきちんと話すことが大事なのですが、お子さんが最も勉強せざるを得ない言葉は次のようなものです。

第一志望を簡単にあきらめるな！何浪してでも生きたい大学に入れるようにがんばれ！一度口にした目標は捨てるな！

そしてそろそろ厳しい戦いに疲れが見えた時に、

自分があきらめてもいいなら、お母さんは別に文句は言わないよ。私立にしてもお金はなんとかするから

行きたいならだめで浪人しても構わないよ。お金はなんとかするから

と言ってあげられれば格好いいと思います。このタイミングは12月～2月です。少なくともうしばらくは厳しくても目標を生徒が追いつけるような励ましの言葉をお願いしたいと思います。

大学入試動向報告

駿台難関大学入試動向報告、ベネッセ東大入試研究会など、このところ、入試研究会が続いていました。入試動向を簡単に報告します。

発表されている主な変更点

- ① 慶応大学センター利用廃止 2012年度より、慶応大学はセンター利用入試が廃止されます。
- ② 東工大後期日程廃止 2012年度より、7類（生命系）をのぞき、東工大の後期が廃止されます。したがって、前期の合格がとりやすくなると同時に、横浜国立など、受け皿となる後期大学の動向が注目されます。
- ③ 北海道大学入試方法変更 総合入試という学部指定のない入試を導入しています。入学後の成績により、学部を選択します。これにより学部別入試のない薬学部、理学部、農学部、工学部などはかなり動きがありそうです。（狙い目となっていくということ）
- ④ 千葉大学試験科目変更 2012年度より工学部のほとんどの学科が2次試験で理科2科目指定となることが発表されています。
- ⑤ 横浜国立大再編 学部再編にともない、教育人間科学部の理系学科が本年度より理工学部に移っています。
- ⑥ 上智大学 総合人間学科に看護学科を新設
- ⑦ 全学部入試 導入大学は、2011年度では、明治、青山、立教、中央（文・理工はのぞく）、東京理科、明治学院、成蹊などです。

- ⑧ センター利用科目の変更 多くの大学がセンター科目を第一解答科目に指定変更しています。

安全志向

不況の影響と2012年からのセンター時間割変更を受け、安全、現役志向が強い。次年度は強い浪人が少なくなるので、朗報といえるだろう。不況の影響でいうと、関西地区からの「東大→京大」の流れが強く、東大はやや下がり気味。東大の一人勝ちに一段落ついた形。また、地方の学生が地方帝大、地元国立にとどまり、東工大、一橋あたりへの流入が少なくなっている模様。私立では早稲田が減少傾向で、安全志向がみえてくる。

理系志向、文系人気減

全体傾向で言うと、不況のせいか、理系が若干人気、文系が減少傾向。

国公立後期日程

後期まで粘る生徒は非常に少なく、入りやすくなっている状況。駿台のデータでは東工大の後期合格の偏差値は最低44.8から最高56.4。56が3人、52が3人、50未満が2人という数字。したがって、国公立志望者は、①センター後に志望を下げずに強気の出願をすること②最後まで受験することを覚悟することが重要です。

たとえば、前期は第一志望に出願し、後期は安全校に出願する「よくある出願パターン」では、前期に失敗した場合、たいてい私立でそこそこの大学がとれ、後期出願大学に魅力を感じず、不受験となることが多いわけです。その結果、後期は欠席率が50%を越え、最後までがんばると受かることになります。

具体的にすると、第一志望東工大の場合、前期「東工大」後期「首都大」「横国」というような出願をしているわけですが、東工大を本当に狙える生徒なら、早慶や理科大の合格がとれますから、ここと3月中旬の第一志望でない首都大を比べると、「もういい」となるわけです。ちょうど科目選択の時期ですが、国立志望生徒は夏に成績があがらない程度ではめげず、最後の最後までがんばる覚悟を決めましょう。

主要私立 学部学科・キャンパス情報 今年の学年通信より

親世代と大きく違うのが、学部学科の改組やそれに伴うキャンパス移転です。こうした改組や移転により、大学入試の難易度が異なるのは当然のことです。昔のイメージで大学を見てはいけません。一般的に都心から便のいいキャンパスは難易度が高く、千葉、埼玉、神奈川、多摩などのキャンパスは難易度が下がります。

早稲田大学

文学部・文化構想学部 戸山キャンパス 旧第一文学部と夜間主であった第二文学部が統合、改編されたものです。つまり夜間主の文学部は現在ありません。

法学部・政治経済学部・商学部・社会科学部・教育学部・国際教養学部 早稲田キャンパス
社会科学部＝かつては夜間主でしたが、昼夜開講を経て、現在は午前から授業をしています。内容もかつては政経の夜間の位置づけでしたが、現在は社会科学として政経とは内容的にも異なる編成となっています。当然難易度も、政経、商に次ぎ、ほぼ商学部と変わらないところになって上がっているのです。

教育学部＝初等教育が新設され、難関となりました。基本的に早稲田の教育学部は教員養成系ではない教育学部です。つまり、卒業に教員免許の取得が必須でなく、卒業時の学士も教育学士ではなく、文学士など、専攻科目にまつわる学士になることが多い学部です。「教育学部」をとったところが、専攻であると思ってよいでしょう。

国際教養学部＝英語を学ぶというより、英語で学ぶという学部です。英語で全ての授業が行われるというインターナショナルスクールのような学部です。退学率は高め。よくわかっていな

いについていけなくなります。

基幹理工・創造理工・先進理工 西早稲田キャンパス

旧大久保キャンパス（高田馬場近く）が、地下鉄の駅ができたことにより、西早稲田キャンパスと名称変更しました。場所は変わりません。学科改編を行って、理工学部がこの名称の3学部となっています。

スポーツ科学・人間科学 所沢キャンパス 現在のスポーツ医科とスポーツ文化の2学科が統合され、スポーツ科学になります。入試形式にスポーツがありますが、本校のクラブ活動程度の実績では入りませんので、学力分野の狭き門をくぐる必要があります。

慶応大学

文学部 1年次日吉→三田

法学部・経済学部・商学部 1・2年次日吉→三田

経済学部・商学部は数学利用のA方式と数学のいらぬB方式があります。あきらかに数学利用の方が入りやすくなります。商Bの小論文は論文というより適性検査。向かない人は向かないので数学受験を考えましょう。

理工学部 1・2年次日吉→矢上

医学部 1年次日吉→信濃町 薬学部 1年次日吉→芝共立

薬学部は、共立薬科大学との統合により生まれた学部です。したがって、2年次以降は共立のキャンパスとなります。

看護医療 湘南藤沢 1・2・4年次 3年次信濃町

総合政策・環境情報 湘南藤沢

通称SFCと呼ばれる湘南藤沢キャンパスは、他の学科に比べると若干難易度が落ちることは事実です。しかしながら、小論文入試がほぼ課されている慶応全学科の中でも、SFCの小論文はボリュームも多く手ごわいもので、受験勉強とともに非常に高いレベルの問題意識、課題解決能力、プレゼン能力が問われます。

上智大学 四谷キャンパス

外国語学部は看板学部で、毎年定員に若干足した程度の合格者しか出さない学部です。理系では現在、理科2科目と理科1科目を併用できる形にしていますが、もともと1科目であった学部であるだけに今後どういう動きになっていくのか目が離せません。

総合人間学部看護学科新設 1年次四谷キャンパス 2年次以降目白キャンパス

新設ですが、聖母大学との合併ですので、もともとのキャンパスになります。

東京理科大

理学部 神楽坂 工学部 九段、一部は神楽坂 理工・薬 野田

基礎工学部 1年次長万部（北海道）→野田 経営 久喜（埼玉）

2013年に、**金町に葛飾キャンパス**が開設され、理・工・基礎工の一部の学科が移転予定となっています。移転学科は以下の通り発表されています。**理学部第一部**応用物理学科**工学部第一部**建築学科・電気工学科・機械工学科**工学部第二部**建築学科・電気工学科**基礎工学部**電子応用工学科・材料工学科・生物工学科**基礎工学部**は1年次長万部です。

また、キャンパス移転にはお金がかかるため、私たちの経験上、1年前の2012年には確実に定員を確保する合格発表をすると考えられますので、君たちの代は理科大のチャンスが膨らむ年だと言えるでしょう。難易度でいうと、やはり理工、基礎工、経営が入りやすくなります。

明治大

文系学部 1・2年次和泉（明大前）→駿河台 理系学部 生田

国際コミュニケーション 和泉

明治もアクセスとして悪く感じる生田はあまり高くなく、国際コミュニケーションも他の文系学部より入りやすいのは事実です。

青山学院

現在は1・2年次相模原から3・4年次青山にくる青山学院ですが、2012年度より予定していた**文系学部の青山キャンパス移転は2013年に延期されました**。現在MARCHクラスでは、明治と立教が難関になりつつありますが、これで青山の文系も盛り返してくることが間違いありません。直接の影響を受けるのは同じミッションのイメージが強い立教でしょう。理工と社会情報の2学部は相模原キャンパスで4年間学ぶこととなります。

中央大

理系 後楽園 文系 多摩

中央大学はその立地からか、文系学部は敬遠されがちです。看板学部の法学部をのぞきやや入りやすさがあります。

法政大

文・法・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン・グローバル・デザイン工 市ヶ谷 経済・社会・現代福祉・スポーツ健康 多摩 情報科学・理工・生命科学 小金井

法政は、学部配置が複雑で分かりにくい面がありますので、注意が必要です。一般的に、ですが、やはり多摩キャンパスと市ヶ谷キャンパスでは多摩が敬遠され低い傾向があります。経済（多摩）と経営（市ヶ谷）あたりでは似ている学科系統ですが明らかな差があるように感じま

30期学年目標

す。

学習院 全学部 目白

未知の世界を切り開き、社会に貢献する、自立した「人財」へ

目標とする人間像

「気づき」のある人間 「聞く姿勢」を持つ人間 「学び続ける」人間

身につけるべき力

目標から「逆算」する力
やるべきことを「具現化」する力
他者を「理解」し、「理解される」力

夢実現のための十則

- 夢を持て。ない夢はかなわぬ。目標なく一生懸命やることに酔うな。
- やることを与えられるな。自分のために創り出し、形にして期限を決めよ。
- 他人と関われ。他人を理解しようとしろ。他人に理解される努力をしろ。
- 挨拶をせよ。人に気づき、人に気付いてもらえる。
- 毎日他人に奉仕しろ。心がきれいなら他人も応援してくれる。
- 話を聞く姿勢を作れ。聞く人には教えたくなる。助けたくなる。
- 書け。何度でも書き直せ。書かないことは考えていないこと。
- 自分と戦え。自分は見ている。人と戦うな。気にするな。自分が変われ。
- 大事なことは最初にやれ。優先順位を考えろ。タイミングを逃すな。
- 成功を繰返し、失敗を繰返さぬよう分析しろ。原因を五回さかのぼれ。